



日本サーバス会長 T.Y.

日頃はサーバス活動にご理解、ご協力をありがとうございます。

毎日の猛暑、会員の皆さま方はいかがお過ごしですか？

熱戦を繰り広げたパリオリンピックも終わり、日本選手の素晴らしい活躍にテレビにくぎ付けになった方も多いと思います。

8 月は私たちにとって広島、長崎の原爆の日、終戦記念日と忘れてはいけない月です。戦没者を悼み、戦争の愚かさ、悲惨さを伝える催しや講演会が多く開かれています。しかしながら世界に目を向けますと「ロシアの全面的な侵略」、「パレスチナ、イスラエル戦争」と終わりの見えない戦争が続いています。

サーバスの目的は異なった文化や伝統をもつ国の方々(サーバス会員)との個人的な交流を通して、国際親善と異文化理解を深め、相互寛容の精神を学ぶことを目的としています。皆が平和を求めている今、サーバスの理念は大変意義深いものと思います。

今回の本部会報の「支部だより」には近畿支部会報に掲載されたウクライナから避難してこられた A さんの祈りを込めた投稿の一部を掲載させていただきました。

今号は次の内容を掲載しています。

1. [支部だより](#)
 - 1) 近畿支部会報 2024 年 6 月号より A.K.
 - 2) 東海北陸支部会報 2024 年 4 月号より T.M.
2. [竹中プロジェクト公募結果](#) 竹中プロジェクト運用委員会
3. [国際本部との ZOOM ミーティング](#) T.F.
4. [著作権](#)
5. [日本・ドイツサーバス交流ツアー2024 報告](#) M.M.
6. [編集後記](#) T.Y.

1. 支部だより

1) 近畿支部会報 2024 年 6 月号

ウクライナ A さんから

A.K.

ウクライナから日本に避難している H.A.さんから近畿支部の皆さんに感謝の気持ちを込めた投稿文が支部会報に掲載されました。その 1 部を掲載させていただきます。(編集部より)

ウクライナから日本に避難して 2 年が経ちました。避難している方だけでなく、ウクライナにいる方にも、日本が与えてくださっているすべての支援に深く感謝しています。避難している私たちとウクライナは遠く離れていますが、祖国にいる人たちと私たち避難している者の心は強く繋がっています。

日本文化大好きな私にとって、この困難な時期に日本文化に浸ることは大きな慰めと回復力の源となっています。私はここ日本で安全ですが、私の思いと祈りは一瞬一瞬彼らと共にあります。無力感に打ちひしがれ、彼らを救うために何かできたらと心から願っています。この戦争はまだ終わっていません。この悪夢が終わり、ウクライナが勝利し、美しい祖国に平和が戻ることを心から祈ります。私の心からの願いは、すべてのウクライナ人の安全、癒し、そして明るい未来です。

近畿サーバスのメンバーの方々、特に W さんと H さんには、ご支援とご厚意を賜り、心より感謝申し上げます。私はいつもこの素晴らしいサーバスに支えられ、世話をされていると感じています。皆様のご支援と思いやりは、この暗い時期に光の灯台となっており、心から感謝しています。

心からの信頼と感謝を込めて H.A.

全文は日本サーバスホームページの近畿支部会報 2024 年 6 月号に掲載されています。ぜひご覧ください。

2) 東海北陸支部 2024 年 4 月号より

日本サーバス web を10倍活用しませんか？

T.M.

日本サーバス web の会員専用ページを開けてみませんか。進化しているんですよ。会員専用の閲覧には、全会員共通の ID&PW を入力します。えっ！知らないわ！忘れたわ！の方は、支部長にご連絡ください。進化の例を少しお話しますね。これを読んだ後は、ぜひ一度 web ページを開いてみてください。

- 1: 申請・届け出書類リスト新設
- 2: 読み忘れた会報(他の支部も含む・バックナンバーなど)の閲覧
- 3: 国内会議・議事録・体験記が読める

編集部より

A 業務を担当していますと、日本サーバスの Web を見る機会がよくあります。そこには日本サーバスのここ 15 年間ぐらいの記録が保存されています。読み物としても興味深いと思います。またサーバスの歴史の一部でもありますのでぜひ一度 Web ページをお訪ねください。

2. 2024 年度「日本サーバス竹中プロジェクト」旅行支援公募の結果

竹中プロジェクト運用委員会

「日本サーバス竹中プロジェクト」旅行支援の公募を6月1日～6月30日に実施しました。その結果「サーバス会員への旅行補助金支給」に近畿支部と中国四国支部より1名ずつの申し込みがあり、また「未入会者に対するサーバス旅行への支援」への申し込みは九州支部から1名ありました。それをもちまして、7月9日に選考のためのZOOM会議を開き3応募者について以下のことを決定しました

- 1) 「サーバス会員への旅行補助金支給」に近畿支部 T.O 会員、中国四国支部 M.Y. 会員を対象者としました。

(支給金額は、竹中プロジェクト細則 第2条1項(2)により 50,000円)

- 2) 「未入会者に対するサーバス旅行への支援」に九州支部 F.S. 会員推薦による B.Y. さんを対象者としました。

(LOI作成のための費用(3,000円)は「竹中プロジェクト」が負担する。)

Tさんは韓国、Mさんはウズベキスタン、カザフスタンを始め12ヶ国またBさんはトルコ旅行を計画されています。思い出に残る初めてのサーバス旅行を体験していただきたいと思います。

3. 国際サーバスと日本サーバスとのミーティング

T.F.

8月3日の21時より2時間オンラインでの開催でした。

国際サーバス会長からお互いをよく知るため、サーバス活動をより一層活発にするために意見交換をしようという趣旨です。

参加者は国際サーバス会長 Rさんをはじめ執行部8名、日本サーバス役員や次期役員10名の参加でした。

まず国際サーバス会長挨拶と自己紹介、家族の紹介、国際サーバス本部役員の自己紹介がありました。和やかな雰囲気はこちら日本側の緊張もほぐれました。次に日本サーバス会長 Tさんから順に各自英語で自己紹介をしましたが、知り合いの方たちは久しぶりの顔を見たり、初めて顔を知ったりして打ち解けていきました。

本題に入って、提示された話の骨子に沿って、日本サーバスの現状報告があり、若い会員をどう入会させるかについて、日本は竹中プロジェクトについて説明をしました。国際本部は、例としてドイツサーバスのユースミーティングを通して会員を増やしていること、台湾サーバスは若い会員10名を政府の補助金をもらって韓国に連れて行きミーティングに参加すること等の話をされました。日本はユースの代表が、海外では日本のお寿司を作りたいという人が増えているので、オンラインで教室をやりましょうかという案も出ました。

もう一つの主なテーマは、最近 SOL が V2 になり、家族単位で SOL に記載がなされることになり、例を提示しながら説明がありました。家族の中で会員でない人も載せることが出来、その家庭の構成員についても知る

ことが出来るということでした。それに関して、日本からは会員数が多ければ国際サーバス本部への上納金の問題が重くのしかかる事、会費や LOI の費用等の説明が合わせてなされました。会長さんはその問題に関しては日本がやりやすい方法を探っていていいですよと言われました。

2 時間、様々な国籍の英語が飛び交い、聞き取りや理解が難しい面がありましたが、和やかな空気が流れ、国際サーバス本部が随分と身近なものになりました。こういう機会を持っていただき、参考になることが多く、日本サーバスにとっても、問題が起こってもすぐに国際サーバス本部に相談することが出来る関係が深まったのではないかと思います。

4. 著作権について

会報などに写真を掲載する場合は、執筆者ご自身が撮った写真を使用していただき、人物が写っている場合はその人の承諾を得るようにし著作権を侵害しないようにご配慮をお願いします。

またインターネットや雑誌、SNS その他に掲載されている、一見すると無償と思われる写真などにも著作権が存在し、許可なく使われますとライセンス料の支払いが必要になることもありますので十分ご注意ください。よろしくお願いいたします。

5. 日本・ドイツサーバス交流ツアー2024 報告

九州支部 M.M.

I. 全体の概要

2024 年 5 月 25 日から 6 月 7 日までの約 2 週間、日本サーバス会員 10 人の参加による「日本・ドイツサーバス交流ツアー2024」が実施されました。関東支部 4 名、東海北陸支部 1 名、中国四国支部 1 名、九州支部 4 名の計 10 名です。このツアー実施の発端は、遡ること約 5 年前の 2019 年 12 月に実施されたドイツクリスマスマーケットツアー。当時のドイツサーバス会長が訪日した際、クリスマスマーケットツアーの話が持ち上がり、実現に至ったと聞いています。そのツアーに現日本サーバス副会長が参加し、その時のホストが現ドイツサーバス副会長という縁で、それ以降現在も続いている二人の友情のお陰で、今回のドイツ交流ツアーの話が持ち上がりました。先ずは、昨年 11 月 1 日から交渉が始まり、少しずつ具体的な事柄についてすり合わせが始まりました。



① 1 月末日、ドイツのコーデ

ィネーター（2人、そのうち一人は日本在住の経験ありで、日本語対応可）と日本参加者のグループ WhatsApp を立ち上げていただき、連絡は本当に簡単に瞬時にできて便利になりました。

② 日程や訪問都市などのコースが確定したら、次は各地区コーディネーターに、それぞれの地区での交流プログラムを提案していただきました。参加者の意見や要望も取り入れながら、一般的なツアーでは経験できない、現地の方ならではの素晴らしいプログラムが次々と完成していき、本当に贅沢な内容です。

③ コースは、フランクフルト、シュツットガルト、ミュンヘン、ニュルンベルク、ライプツィヒ、そしてベルリンです。ミュンヘンは、ドイツ側からの提案には入ってなくて、日本側からの要望だったので、原則ホテル滞在としました。それ以外の地区は、ドイツ側から各人にホストを紹介していただきました。ベルリンだけは、日本人受け入れ希望のホスト一覧を紹介していただき、こちらからホストリクエストを送る、という形で、順次ホストが決定していき、いよいよメール交流の始まりです。



④ 家庭の事情等で参加決定が遅れたり、途中からの参加だったりと、ホスト決定について各地区コーディネーターには迷惑をおかけしました。しかし、ドイツ側の協力を得て、無事全地区でサーバステイをすることができました。

⑤ 各地区で交流会も計画されていたので、何か出し物の準備をと考え、ドイツ生まれの日本で歌われている歌を歌うことにしました。これがまた大好評で、「歌に国境はない」ことを痛感しました（カエルの歌、野ばら、ぶんぶんぶん、かっこうなど）。お土産として日本から各自 2,000 円程度の個包装菓子を持参し、小袋に詰め替えて、集っていただいたドイツサーバス会員の数分を用意して、お渡ししました。

⑥ 都市間移動は、DB（ドイツ鉄道）のグループチケット（65 歳以上）を格安で予約購入しました。

【旅行日程表】

No.	日付	曜日	都市	移動 (都市間は列車移動)	活動内容	交流会	宿泊	備考
1	25日	土	フランクフルト	フランクフルト着	自由行動後ホスト宅へ		ホスト宅①	フランクフルトのみ3泊要請
2	26日	日	フランクフルト		クロンベルク旧市街を散策、 カフェでランチ交流会後、各自解散	○	ホスト宅①	日本人グループ初顔合わせ
3	27日	月	フランクフルト		ラインガウ地域へ（丘に登りライン川の景色を眺望等）,他,ホストと行動		ホスト宅①	2名別ルート
4	28日	火	シュツットガルト	10:20 フランクフルト発 11:50 シュツットガルト着	可能なホストとランチ後 州立公園、車or電車で歴史ある大学都市へ,市内観光など		ホスト宅②	2名シュツットガルト行き電車から合流
5	29日	水	シュツットガルト		プール,美術館,ハイキングなど各ホストと。地元でのフェスティバルで夕食全体交流会。	○	ホスト宅②	
6	30日	木	ミュンヘン	10:14 シュツットガルト発 12:26 ミュンヘン着	デイホストと市街地散策 オペラ「ノルマ」鑑賞（立見席?€10/人）		ホテル（ホスト宅）	デイホスト依頼
7	31日	金	ミュンヘン		雨宿りでデイホスト宅訪問。TV画面で,それぞれの写真紹介交流など。夕食全体交流会。	○	ホテル（ホスト宅）	デイホスト依頼
8	6月1日	土	ニュルンベルグ	10:48 ミュンヘン発 11:54 ニュルンベルグ着	自由行動後ホスト宅へ		ホスト宅③	
9	2日	日	ニュルンベルグ		10:30集合センターツアー,旧市街地散策後、レストラン「グットマン」で夕食全体交流会。	○	ホスト宅③	観光ツアー10:30集合 €10/人
10	3日	月	ライプツィヒ	10:27 ニュルンベルグ発 14:10 ライプツィヒ着	到着後ランチorティー 市街地歩き,Bさんの案内,その後ホスト宅へ		ホスト宅④	ミュンヘン郊外大洪水のため、予定列車不通
11	4日	火	ライプツィヒ		10:30から歴史博物館（Bさんの案内）後自由行動。ホスト達と夕食全体交流会。	○	ホスト宅④	
12	5日	水	ベルリン	10:16ライプツィヒ発 11:30 ベルリン着	ベルリンフィル無料コンサート,ベルリンフィル関係ツアー,公園でのピクニック交流	○	ホスト宅⑤	
13	6日	木	ベルリン		朝 8:15から国会議事堂ドーム見学 自由行動		ホスト宅⑤	
14	7日	金	各々の訪問都市	各自移動	解散,自由行動（帰路或いは他都市）		ホテル / ホスト宅	



(ベルリンフィルハーモニー小ホールにて、♪「野ばら」の合同合唱♪)

【係分担】

コーディネーター	Servas ドイツ（各地域を含む）のコーディネーターとの連絡、グループメンバーへの連絡。
DB予約係	ドイツ鉄道（DB）利用計画、利用列車の決定・予約。 集合時間や場所の連絡。
ホテル予約係	ホテル利用時の予約や連絡。
Zoom会議設定係	Zoom会議招待送信とその運営。
会議記録係	会議後、共有すべき内容のまとめ、配信。
日程表作成	旅行全体の日程表作成（内容は随時更新していく）。
会計	共通会計をまとめて支出したり、集金したりする。
お土産係	各自2,000円程度の個包装菓子をもち寄ることに決定。 各地区での交流会用に、必要数の菓子詰め合わせの準備。
交流会出し物係	歌の交流を計画。選曲、歌詞カード準備、作成など。
レポート	各自一地区を担当し、原稿作成をする。

II. 各都市滞在記録

1 ビールと思いきやワインの街 フランクフルト（2024.5.25～5.27）

九州支部 M.T.

初めてのサーバス旅行、初めてのドイツ。酒好きの私としては、ワインはフランス、ドイツと言えばビールと思っていた。フランクフルトに降り立って私がまず驚いたのは、あちこちに見られるブドウ畑。それも、はるか彼方の山すそまで一面に広がっているのだ。この光景は、次の訪問地シュタットガルトも同じだった。ドイツは、ビールと共にワインの国でもあった。

ドイツは日没も遅い。この頃、日本の日没が 19:30 なのに対して、ドイツは 21:30 なのである。夜も 9時半は回っているのに、夕暮れの中、あち

こち
の酒

場でお酒を楽しんでいる。せっかくだから、私もワインを注文しドイツを味わった。これが、記念すべきドイツでの 1 杯目。



さて、私と妻は2日前からホストのSさんのうちにお世話になっているのだが、5/26のこの日は、「クロムベルク駅」で、他の日本人会員やフランクフルトのホスト達と落ち合うことになっていた。

集合時刻には十分間に合うと思うのだが、ホストのSさんは高速道路を飛ばす。メーターを見てみると145 km/h。私は何度エアブレーキを踏んだことだろう。しかしドイツでのこのスピードは日常らしい。この車をさらに追い抜いて走る車もいるのだから恐ろしい。防音壁には至る所にスプレーで落書きがされていたのが気になった。

日本人の会員も含めて初めて会う人達。自己紹介の後、この日の計画者のEさんから、中世の頃のこの地の歴史紹介があった。今日は、城壁に囲まれたこの地を散策するらしい。この後さっそく歩き始めるのだが、私はあるデイホストの男性の横にくっついた。この男性、自己紹介の時日本語が堪能なことが分かったのだ。英語が苦手な私には、何とも天にも昇る気持ちで有難かった。彼のおかげで、いろんな情報を知りえた。今回の旅を振り返ってみると、各地に日本語の話せるホストがいたように思う。これはドイツサーバスの配慮だなと有難く思った。



石畳の坂の両脇には、オレンジ色の屋根のある家が隙間なく立っている。屋根は急傾斜だ。たいていの玄関にはバラやブドウのつるが張っており、それが白壁とよくマッチしている。建物は当時のままらしく、ほぼすべての家屋にリフォームして人が住んでいるらしい。屋根の切れ目から城や教会の塔が見える。どこを切り取っても絵になる光景だ。「ああ、ヨーロッパ…」と酔いしれた。

坂を上りあがった所に「クロムベルク城」がある。塔に登ると、眼下に旧市街のオレンジの屋根がぎっしりと見えた。写真でしか見たことのなかった光景を、今、現実に見ている。ここを出て石畳を下りて行く時、道や庭に咲く花々に目が留まった。バラ、アジサイ、ラベンダー、ハナミズキ…、「何だ、異国の地でも日本と同じ花が咲いているのだな」と思った。またふと思った。「この道の傾斜はお年寄りが歩くのには厳しい環境だが、どうしているのだろう」と。

昼食会場に着く前に、3人の大道芸人によるショーを見ることができた。アクロバティックなパントマイム、声量

のある歌。どれも素晴らしい。無料で見たが、それでよかったんだろうかとふと



思った。昼食会場では、円安のせいもありどれも高めだった。しかし、渋っつては現地を楽しめな

い。若い店員が注文を聞きにきたのだが、彼女は流暢な英語で対応している。これは、ほかの訪問地での若者もそうだったのだが、学校現場での英語教育はどうかされているのだろうと興味を持った。

5/27、フランクフルト2日目の午前中は、ホストのSさんと共にニーダーヴァルトの丘へ登った。女神の像の下から見下ろすと、ブドウ畑が一面に広がり、それははるか下のライン川を越えてさらに向こうの山すそまで続いている。何という壮大な景色。ここに来ないと見られない景色。この後、昼食会場に向かった。そこは、お城のような造りのワイン工場らしいが、その一角にレストランがある。そのテラスで他のメンバーと合流し昼食をとった。ここでもワインは外せない。ボトル1本注文し、味わいながらみんなで空けた。



ここを出る時に、珍しい物に出合った。ボウリングのレーンが1レーンある。ピンとボールは木製。ボールを戻す仕組みも面白い。レーンの右側にある傾斜のついた木製の溝に乗せ、転がして戻すのだ。これは、ボウリングの初期の物らしい。ここで、一番ピンを多く倒したKさんは、「ボウリングクイーン」とホスト達から称賛された。さらに行くと、大きな菩提樹がある。私達は思わず口ずさんだ。「♪泉に沿って…」。その向こうには池があり、カエルもチラホラ見える。準備はしていたものの、昨日歌う機会がなかったので、ここぞとばかりに続けざまに輪唱で歌った。「♪カエルの歌が…」。歌い終わった後、カエルがかすかに「ゲロゲロ」と応えてくれた。ああ、これで満足。

2 シュツットガルトを訪ねて～村の人情に触れて～ (2024.5.28～5.29)

東海北陸支部 K.N.

5/28 フランクフルト駅に、初めて今回の旅行メンバー8名が集結し、列車に乗り込みました。

Yさんがフランクフルトからベルリンまで、指定席で8名の切符を安価に購入して下さいました。1時間半でシュツットガルトに着くと、サーバスホストがホームで出迎えてくれました。ホストのBさんは生後2ヶ月の赤ちゃんを抱えての出迎えでした。Cさんのホストは車椅子生活の方でした。

皆でレストランに移動し、ランチを共にしました。近くのミュージアムで昔ながらのエレベーターに挑戦しました。単純に箱が上下に移動し、タイミングを図って人が乗り込む形式です。スリリング「怖いエレベーター」でした。日本ではすぐ禁止になりそう。何事も"個人の責任で"のドイツならではの感じました。



ここで当地のコーディネーターのKさんとも合流しました。M夫妻、Cさんと私はそのままティュービンゲンまで移動して、若者が溢れ、花々の美しい大学都市を楽しみました。

ティュービンゲンの丘の上には古い美しい城がありました。

夜はKさんが音楽会に案内してくれました。ピアノを弾き語りするパトリックさんは聴衆を歌い手にしてしまう、稀に見る才能を持つエンターテイナーでした。ジョンレノンの“イマジジン”をはじめ、私たちが初めから終わりまで歌うことに引き込み、私たちも知らぬ間に歌いっぱなしの1時間30分でした。

翌日5/29はシュツットガルトの歴史博物館を見学しました。昼にはトルコ料理のドネルとユフカを楽しみ、夕方からKさんの地区の集まりに参加しました。他のメンバー6人もそれぞれのホストと共に遠くから参加しました。各ホストの都合もあり、ホスト同士が助け合って車に分乗しての参加でした。村の路地にテントを並べて300人程の人が参加して食事やワイン、ビールを楽しみました。その売り上げはクリスマスの為の資金になるそうです。年に5-6回行われるそうで、人々の温かい交流が素晴らしいと思いました。私たちは歌を披露しました。

Mさんリードで「カエルの歌」の輪唱や「野ばら」などを歌いました。全てドイツから伝わった歌でした。集まった皆さんも喜んで下さり、ドイツ語と一緒に歌ったり、自分たちから歌い出したり、実に楽しい交流になりました。音楽に国境はないとつくづく思いました。夜のふけるまで楽しみ、皆さん車でホスト宅まで帰りました。



公園には昆虫類の憩いの家があり、自然を大切にしています。

どの家にもコンポストがあり、生ゴミ処理をしている。小袋に至るまでプラスチックバックを使わない。存在しない。ラップ類もほとんど使わない。地球を守るSDGsが当たり前の生活を見て、身の引き締まる思いがしました。

私たちは便利さに甘え、溺れていないか？ドイツ旅の大きな収穫でした。

5/30 ミュンヘンへの移動の車中はサッカー観戦や登山の人で大盛り上がり。

ビールサーバー持ち込みで「飲みねー食いねー」の世界。何杯もご馳走になりました。



3 雨のミュンヘン、でも最高でした！（2024.5.30～5.31）

関東支部 C.M.

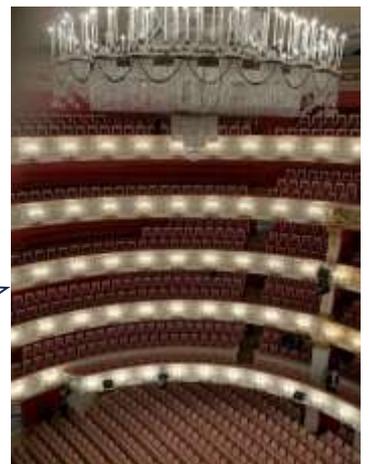


ミュンヘンの中心マリエン広場

後ろの建物は、市庁舎と仕掛け時計。40年かけて100年以上前に建てられた。現在も使用されており、その壮麗さに圧倒されます。

オペラハウス

200年前に建てられたヨーロッパのトップクラス歌劇場でOPERA「ノルマ」を鑑賞。歌唱力と声量は圧巻！



ドイツメンバーとバイエルン料理とビールの醸造で有名なビアガーデンでランチ。クラフトビール、ドイツのパン、プレッツェル、ホワイトソーセージは絶品でした。



朝からAさんとCさんに市内ガイドをしていただいた後、Aさん宅を訪問。日本の大ファンで、お部屋のいたるところに彼女のアート作品などがセンスよく飾られていました。その後有志が一芸を披露、大盛り上がり交流会になりました。



毎回の交流会には10名以上のドイツメンバーが参加。ここではブラジルからのトラベラーも。歌の交流は大盛況で、ドイツの旬の味覚のホワイトアスパラガスや豚肉料理などを堪能しました。

4 雨のニュルンベルクを楽しむ (2024.6.1~6.2)

中国四国支部 I.H.

- ① 雨の影響で、ドイツの南方面は種々の悪影響があり、ニュルンベルクに向かう電車は、1時間も遅れた。しかし、その時間を楽しいひと時に変える事が出来るのが、今回のサーバス日本グループの凄いとことである。写真左は、到着時。また最終日ライプツッヒへの電車は洪水のため急遽キャンセルで大パニック。次の電車を待つメンバー。(写真右)



- ② 第2次世界大戦時、建物の多くを失ったが、旧市街地は、唯一残った城壁に覆われた歴史ある街、雨に映える美しい緑、居住地の墓地も緑と花にあふれ、実に美しく、人と自然が共生し、一体感が感じられる。



- ③ 雨の中をガイドの女性からこの町の説明をうけた。木造の橋を渡る。



- ④ 美しの泉という高さ 17m の塔。ここから出る水はとても衛生的で、飲み水としても利用できる。教会は聖セバルド教会で、最も古い教会の一つで、人々の生活に満ち溢れている。



- ⑤ 夕食時に突然の雷と稲妻と雨。レストランの中に移動、ドイツ生まれの歌、野ばら、ぶんぶんぶんなどドイツと日本のメンバーが一体となり大合唱で、楽しいひと時を過ごし、その日が終わった。



5 音楽と歴史の街 ライプツィヒ (2024.6.3~6.4)

関東支部 S.M.

大雨の影響でニュルンベルグからライプツィヒに向かう列車がキャンセルになりました。ホストの方々が代替の列車を調べてくださったので予定時間に大幅に遅れることなく 14 時 15 分頃、ライプツィヒ駅に到着することができ、とても有り難かったです。

駅ではライプツィヒのコーディネーターを務めてくださった B さんが出迎えてくださいました。荷物は彼女のご厚意によりライプツッヒ大学のキャンパス内に置かせていただき市内観光を開始。ライプツィヒ大学と言えばゲーテやニーチェ、森鷗外、そしてドイツのメルケル元首相が学んだ大学としても知られています。

まるで野外美術館のような景観の旧市街地散策後、各ホストとお会いしそれぞれホスト宅へ。私は Y さん、C さんと一緒に B さんのお宅にお世話になりました。お宅は旧東ドイツのライプツィヒ郊外の静かな住宅街でした。



翌日は 10 時 30 分に集合して市内散策。昼食後はトーマス教会、グラッシィ博物館等を見学。トーマス教会はバッハが音楽監督を 27 年間務めた教会で綺麗なステンドグラスとバッハが弾いた頃の音を再現したパイプオルガン、教会内の床に埋め込まれたバッハのお墓が強く印象に残っています。



ライプツィヒは東西ドイツの統一に向けた流れをつくった地でもあるそうです。その中心となったのがニコライ教会で、1981年から毎週月曜に開催されるようになった「平和への祈り」という集会在、やがて民主化運動のデモに発展し、1989年のベルリンの壁崩壊へと至ったそうです。教会前の広場はベルリン崩壊の第一歩が始まった場所で、東西統一の原点であることを示すニコライ記念柱が立ち、レリーフが埋め込まれていました。

夜にはライプツィヒで最も古い伝統的なお店で、マルティン・ルターが生前に常連客であったレストラン「Thuringer Hof」でホストとのディナーを楽しみました。陽気の良い6月、ライプツィヒの街は花いっぱい。道路に植えられている菩提樹には黄色の花が咲き誇っていました。



6 ドイツ、昨今の自転車事情 Berlin の旅 (2024.6.5~6.6)

関東支部 T.S.



ドイツでは大勢の人が自転車を利用している。特に Berlin のインフラ整備が進んでいることで、地元住民にとっても健康増進や交通渋滞の解消、住み心地向上といった効果を生んでいる。また満員電車のストレスから解放され、電車ならではの遅延や運休に振り回されない。また、観光客が楽しく安全に自転車を利用出来る。という観点からだろうか？私達の旅のサーバスホストも、6人中4人は自転車派でした。

但し、駅の構内など、階段を力づくで持ち上げなければならない場面を見ると、東京では出来ないな、と感じた。ドイツの温室効果ガス排出量の推移と削減目標。

メルケル政権下で2022年末に脱原発の完了、遅くとも2030年には自然エネルギー発電で総電力消費の65%をまかなうことを法制化している。

少なくとも1500万台の電気自動車（EV）普及を目指すなど、野心的な目標を掲げている。そう云えば、2月に来日したドイツのサーバスゲスト、Hさんも自国ではEVに乗っていると話していた。また、LeipzigのJさんは自転車で私達の夕食会場に来て、帰りは私の乗るトラムの下車駅を指示して、一足先に駅を後にした。そうして到着駅で出迎えてくれた。BerlinのCさんも自転車派で仕事にもまた、日常の生活手段にも自転車は欠かせないらしく、電車内では、どう見ても軽くはない自転車を2つに折りたたんで持ち込んでいた。お国事情は同じわけではないが、ヒントにはなりそうだ。



Berlin フィルハーモニーの若き演奏家たちに聞き入る。二人の日本人も含まれていた。



Felix Mendelssohn Bartholdy(1809-1847)

Streichquartett Es-Dur op. 20

1. アレグロ・モデラート・マ・コン・フーク
2. アンダンテ
3. スケルツォ・アレグロ・レジェリッシモ 74 1V
4. プレスト

国会議事堂見学は事前に予約を入れていただいていたので、スムーズに入ることが出来た。これからBerlinを訪れる人にはお薦めの場所である。



Ⅲ. 旅を終えて

◎ 頼もしいホストたちに感謝！

ドイツのサーバス会員には頼もしい方々が大勢です。若い B さんは生後、2 か月過ぎの坊やを連れて駅まで、お出迎。その足で 2 人分のスーツケースを先に家まで預かってくれました。当然駅には車で来ているものと思っていたら、トラムを使って家まで運んだのだとか。信じられない。私一人でも自分の鞆を重いと感じるのに幼子を抱きかかえながら運搬は、さぞ辛かっただろうと想像に難くありません。大変申し訳なかったと思います。

また H さんはドイツのアウトバーンをビューン、ビューン飛ばして私達をワイナリーまで案内。快適なドライブでした。



(T.S.)

◎ ドイツの緑あふれる居住地とガーデニング

フランクフルトから始まった旅だがドイツ全体のイメージとして、日本の都会と違い、居住地の近くに、実に緑が多い（菩提樹他、大木が街の中に多く見られる）のは、人が自然の中で、暮らすのが日常であるとの概念で、街づくりが行われているのではと思われた。

人によっては、自宅の屋上にも、ラズベリーやイチゴなどを栽培している。雨水を利用した池や植栽もあり、緑あふれている。生ごみをコンポストに利用するなどは、特別ではなく、また、昆虫を飼育する巣箱のようなものが各地に置いてあるのも、ガーデニングの一環として、ごく自然に取り込まれているように思われた。

自宅の周りに多くの緑はあっても、ガーデニングできない場合には、近い場所にガーデニングできる場所を設け、そこで、実りある樹木、りんご、サクランボ、イチジクや季節の花々やハーブなどを育て、楽しんでいる。

しかし、日本のような美しい造園ではなく、ビオトープ（自然の池）として、自然と昆虫など生物と共生がそこにあった。子供と親がともに、それを楽しんでいる風景も見られた。



ドイツの人々は、学校教育だけでなく、自宅近くで、楽しみながら、自然の大切さを体験しているのを感じるのと同時にドイツのサーバスメンバーの多くが趣味や関心事にガーデニングと記載してあったことを思い出し、そのことを納得した。



日本の江戸時代は環境にもっとも優しい生活であるといわれているが、その心をドイツで垣間見たように思った。 (I.H.)

◎ 再会の喜び



(ストラスブールの朝市とコウノトリ)

フランクフルト集合の前の3日間仏ストラスブールへ、ベルリンでの解散後の3日間トリアに、共に旧友との再会を楽しみに出掛けました。

トリアにはドイツ最大の「古代ローマ都市遺跡」があります。2014年秋に我が家に滞在したB.S.夫妻からはその後も”早く来てください”とメールが届きました。

2018スコットランドのハドリアヌスの壁(古代ローマ人の築いた英国版・万里の長城)を訪ねた夫と私は2020年春にトリア行きを計画していましたが、コロナ禍で断念しました。

それが今回実現し、サーバス仲間2人と一緒に滞在しました。10年を経て再会した私たちは懐かしい親戚に会った思いでした。彼らは心から私たちをもてなしてくれました。

トリアの遺跡を歩き回り、丘の上の植物一杯の家で、ブドウ畑を吹き渡る風を受けて、幸せな時間を過ごしました。



世界中に親戚を作ってくれるサーバス活動は改めて素晴らしいと思いました。そして今回ドイツに新しい親戚5軒ができました。

(K.N.)



トリアのホストの家では奇跡がおきました。私達3人が到着した翌日に一齐に【夜の貴婦人】の花々がまるで私達を待ち受けてくれていたかの様に咲いたのです（4人のバックの花）。あまりの感動に動画におさめました。1年に1度しか咲かない【夜の貴婦人】に巡り合えたのは、何と幸運だったのでしょうか。なんでも、Bさんのお話ではメキシコに旅行に行った時、友人から貰ったそうで、10年かけて育て上げたそうです。（T.S.）

◎ たくさんの出会いに感謝

今回の旅行では、ぜいたくにも一度に大きい6都市を、サーバス旅行でめぐるという機会をいただきました。5件の素敵なホスト家族との出会いはもちろんです。ミュンヘンで dayhost していただいた C は、5年前の国際サーバスのイベントに参加した際、バスの中で初めて出会って以来の友人でした。

ホストだけではなく、6つの各都市で、地区の交流会も開いていただき、毎回、他の会員との交流もでき、とても賑やかでした。「どこかで見たような顔・・・」、「ソウルの会議に参加されていましたよね」、「日本ではあなたの家にお世話になりました」などの会話があちこちから聞こえます。この旅行を計画中にドイツのトラベラーからのホストリクエストが2通来ました。あったこともない会員ですが、ドイツということで、いろいろドイツ情報のメール交換もできました。人と人をつないでくれる、これが SERVAS です！



ドイツコーディネーターの M さんを始め、各地区コーディネーター、そして関わっていただいた会員の皆さん、本当にありがとうございました。

Ich bin Ihnen wirklich dankbar ! (M.M.)

編集後記

夏の風物詩の一つに花火大会があります。近くの遠賀郡芦屋町では毎年7月の終わりに盛大な花火大会があります。以前はよく行ったものですが最近はだんだん遠のいてしまい、その代わり今はテレビでの花火中継を楽しんでいます。現地で見るとは迫力は違いますが日本各地のそれぞれ特色のある花火を見ることができていいものです。

また、隣町折尾では毎夏「夏超祭」が行われます。「夏超祭」は無病息災と夏を健康に乗り切るためのお祭りで、折尾神楽が演じられ折尾の夏の風物詩として定着しています。出雲の国石見神楽をもとに創作された神楽で勇猛にきらびやかに激しく舞う神楽です。

最後までお読みいただきありがとうございました。残暑厳しき折、ご自愛ください。

文・写真 T.Y.

